

### 誰も取り残さない

#### 寄り添う支援と

#### 地域での支え合い

**問** 公的支援制度の対象とならない市民に対して、きめ細やかな支援ができないか。

**答** 市内に6カ所ある地域総合支援センターでは、相談者の属性や世代、分野を問わず、広く相談を受け付けている。相談内容が公的支



あさざり・おおくら総合支援センター

援制度の対象に当てはまらない場合は、各学校区に配置している生活支援コーディネーターを中心に、支援が必要な人と地域ボランティア等とのマッチングに努め、一人一人に寄り添う支援につなげている。

また、主に地域支え合いの家などの地域の居場所から声掛けや見守り、訪問活動など、住民による支え合いの仕組みづくりが進められている地区もある。市としては、地域で支え合う意識の向上や多様な居場所づくりの推進、地域ボランティアの育成支援等に取り組みむ必要性を強く認識している。

### 保育施設の入所申し込み

#### 利便性向上と事務の効率化へ

#### 電子申請を早期導入

**問** 保育施設への入所申し込みについて、申請者の負担軽減と事務の効率化のため、早急に電子申請を導入すべきと考えるが、市の見解を問う。

**答** 本市は、令和2年度から郵送での提出を可能としたが、原則は紙

様式による窓口での受け付けとしている。こ

### 大蔵海岸での自然観察 体験型施設を整備 さらなる内容の充実を

**問** 大蔵海岸に新たに開設した自然観察ゾーンおよび自然観察センターの利用状況と今後の取り組みを問う。

**答** 本市は、子どもたちが生き物と触れ合い、遊び・学び・喜びを体験できる自然観察ゾーンとして磯浜に潮だまりを設けるとともに、観察セットの無料貸し出しや図鑑などが閲覧できる自然観察センターを整備し、令和3年7月22日から10月までの土日・



海の生き物を観察できる自然観察ゾーン

れは、その場で書類の確認を行うことで再提出を未然に防ぎ、アレルギー食などの聞き取りや入所に関するさまざまな相談に対応するためである。

一方、電子申請の活

用は、書類の入手や市役所への来庁が不要となること、24時間申請できるといった市民の利便性向上だけでなく、システムへの入力作業が不要になるなど、事務の効率化による職員

### ムクドリ被害

#### 課題解決に試行錯誤

#### 効果的な対策は

**問** 明石駅周辺のムクドリの被害状況と今後の対策を問う。

**答** 市には、大量に飛来するムクドリが歩道上にふんを落とし、歩行しにくいなどの苦情が多く寄せられている。ムクドリは、鳥獣保護管理法により、保護や管理が求められているため、慎重に取り扱わなければならないが、樹木の剪定や電線に止まり

の負担軽減にもつながる。本市では、今年度から希望施設の変更など簡易な手続きについては導入しており、今後は入所申し込みについても導入できるように早期に取り組む。

いくくするなどの対策を行ってきたが、根本的な解決には至っていない。このような中、国道2号明石駅前交差点改良工事を施工する請負業者が、天敵であるタカを使い追い払う試みを行ったところ、駅前からは大幅に減少したが、他の場所へ分散移動していることが分かった。

今後も、市民の生活環境や街の美化を図るとともに、生態系の保護と調和の観点に立ち、関係機関と連携しながら、より効果的な対策に取り組んでいく。

### 暗所視支援眼鏡への助成 実用性・安全性の見極め必要 優先度を考慮し検討

**問** 視覚障害者の中に、暗い場所などで物が見えにくくなる夜盲症の人がいる。日常生活用具給付事業の対象に暗所視支援眼鏡の購入費用の助成を追加すべきと考えるが、市の見解を問う。

**答** 現在、本市では移動用リフトや入浴補助用

具、電気式たん吸入器、視覚障害者用拡大読書器などの50種目を給付対象用具としている。暗所視支援眼鏡は、カメラが捉えた暗闇の映像が目の前のディスプレイに明るく投影されることで、暗い場所でも物が見えるようになる眼鏡タイプの装置である。当該装置は、販売開始から3年程度で、実用性や安全性などを慎重に見極める必要がある。また、さまざまな障害者団体から、日常生活用具の対象種目の追加や見直しの要望があるため、事業全体として優先度を考慮し検討したい。

### 不登校などへの対策 教職員の対応力向上と さまざまな取り組みを進める

**問** 不登校やいじめ、中間ギャップ対策を問う。

**答** 不登校については、教職員間で早期対応マニュアルの共有を図るとともに、研修会の充実など対応力の向上に努めている。また、カウンセリングなどを学校に配置し、心理的・福祉的な支援のほか、学校以外の学びの場とし

### 不安や悩みに寄り添う

#### 妊娠期からの切れ目ない支援

#### 安心して産み育てられるまちへ

**問** 産前・産後の母親の孤立を防ぐ心身ケアの

**答** 本市は、安心して子

どもを産み、子育てができるまちを目指し、妊娠期からの切れ目ない支援に努めている。市内5カ所の子育て支援センターや明石駅前

みに寄り添うため、子育て講座等を開催している。また、28小学校区ごとに設置する子育て学習室の支援にも取り組んでいる。

このほか、産後の不安解消や休息のため、

助産師や保健師の専門職が、医療機関や助産所および自宅で、沐浴や授乳など育児のサポートを行う産後ケア事業を実施している。さらに、令和2年10月1

歳までの間、支援員が毎月紙おむつ等を無料で届け、子育て相談に応じる0歳児見守り訪問事業を開始したところだ。今後も、子育て支援体制の強化に努めていく。

### 議員ふもやま話

新しい年が明けました。2022年のえとは壬寅(みずのえとら)。えとは、十干(じっかん)と十二支(じゅうにし)を組み合わせて60通りあり、60年かけて一巡します。つまり、同じ寅年でも5種類あるのです。今年が壬と寅の組み合わせで「陽気を孕み、春の胎動を助く」の意に通じる、つまり厳しい冬を越えて新たな命が芽吹く年だそうぞうです。

昨年、一昨年とコロナ禍に見舞われたことにより、全ての市民の方が清々しく晴れやかな気持ちで新年を迎えているわけではないかもしれません。どうか壬寅の意味どおり、今年こそは厳しい冬を乗り越え希望の兆しが見えることを心より願いながら、明石市議会は本年もさまざまな課題にしっかりと取り組んでまいります。